

12月3日(木)~12月9日(水)は『障害者週間』です

まちで見かけるサインを知ろう!

補助犬マーク



補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)も入れる店の入口に貼ってあります。補助犬はペットではなく、身体の一部です。

私が仕事をしている

ときは、絶対に声をかけたり、触ったりしないでね。



ヘルプマーク



外見から分からなくても、援助や配慮を必要としていることを知らせます。困っている方を見かけたら声をかけましょう。

耳マーク



聞こえが不自由なことを表し、コミュニケーション等で配慮が必要なことを知らせます。手話や筆談等で対応します。

オストメイトマーク



人工肛門、人口膀胱を使用している方(オストメイト)のためのトイレ入口にあります。必要とされる方がすぐにトイレを利用できるように配慮が必要です。



築いていきましょう。

現在、市では、第3次障がい者基本計画・第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画の策定を進めています。障がいのある人が日常生活や社会生活において受ける制限は、心身の機能障害のみによって生じるのではなく、社会の中にあるバリア(社会的障壁)によって生じるものであるという『障害の社会モデル』の考え方に立ち、バリアをなくすことで、誰も

『共生社会』の実現に向けて

お互いの人格と個性を尊重して支えあう

が暮らしやすい社会の実現につながることをめざしています。障がいのある人が住み慣れたまちで安心して暮らせるまちづくりと障害福祉サービスの提供を円滑に行うための指針となる計画です。今後、パブリックコメントを予定していますので、ぜひ多くの方からご意見をお寄せください。詳しくは、広報紙でお知らせします。



※障害の社会モデルの考え方
例えば、車いすを使用している人が段差をあがれないのは、身体に障害があるからではなく、段差があるという状況(社会の中にあるバリア)に原因があると考えます。

● 問合せ…障がい福祉課
● 電話…69・2161
● FAX…63・4085

『みんなちがってみんないい』

皆さんの中には「障がい」と聞くだけで、避けてしまっている人がいるかもしれません。自分の中にあるものさしで自分と違うから、接し方がわからないからと、自身で勝手に決めてしまふことが、そうした行動をしてしまふ原因ではないでしょうか。常に配慮が必要と身構える必要はありません。その場、その時々で、相手のことを少し考えてみる、相手が困っているのではないかとほんの少し思いを寄せ、その思い、その気持ちやがてその人が必要とする行動につながるっていくのではないのでしょうか。外見や内面、能力や障がいの有無など、誰一人として同じ人間はいません。『みんなちがってみんないい』、その人それぞれの個性だと認識し、心の中にある壁(障がい)を取り除き、みんなので支え合える、そんな『みんなの居場所』を築いていきましょう。

知識、理解と

ほんの少しの思いやり

今回取材をさせていただいた以外にも、さまざまな場面で見られる差別は実際に発生しています。みんなが障がいに対する知識と、正しい理解、少しの思いやりで、こうしたことを少しでもなくすことができれば良いですね。

補助犬のことをもっと知ってほしい

岡本 初さん

今年2月に宇都宮市から甲賀市へ。盲導犬「ピリカ(女の子)」との出会いは6年前、現在県内に12頭いる盲導犬のうち1頭が岡本さんのもとで暮らしています。

甲賀市に来てまもなくの頃、病院帰りに寄ったコンビニで「犬は入れません」と入店を拒否され、とても悲しい経験をされました。身体障害者補助犬法により義務付けられている入店が可能であることが店員が知らなかったことから起きた出来事です。

岡本さんは「新型コロナウイルスの影響

で、イベント等がなくなり、人との交流が少なくなっていることがすごく寂しく思います。市内で補助犬への理解が広がるとともに、補助犬への予防注射への支援も拡充してほしいですね。」とおっしゃっていました。

▶「自宅では小説のCDをピリカと一緒に聞いています。」と岡本さん(通所中のデイサービスで)



誰にでも話せるようなまちになってほしい

劇団ふりいだむ

障がい者の方で構成された劇団です。

設立から11年、少数で始まったメンバーも今では演者15人、スタッフ6人まで増え、毎週日曜日に水口社会福祉センターに集まり練習に励んでおられます。これまでは地域の敬老会や福祉施設、クリスマス会など年に7、8回の出演がありましたが、現在は新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止され、「せっかく練習をしても発表の場がないことが非常に残念です。」と皆さん。

メンバーの中には、劇団以外にも地域の空き家を活用したサロンで、地域の居場所づくりのために活動されている方もおられます。お話の中では失敗談も、「バスで



▲市内の水口スポーツの森でも練習をされておられる木村さん(和歌山大会での競技の様子)



▲早く新型コロナウイルスが収まり練習の成果が発揮できる場を望むメンバーの皆さん